

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	資格対策講座 2	
科目基礎情報					
開設学科	電子・電気科	コース名	電気工事コース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時限
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	内田寿彦		実務経験の有無・職種	有・ 第一種電気工事士	
学習目的					
この科目を受講する学生は、総合電気工事における国家資格「甲種4類消防設備士」取得の為の知識を習得する事が出来ます。消防設備士とは、消防用設備が常時機能を発揮する事を確保する制度であり、消防設備士はその業務を誠実に言い工事又は整備に関する技術の向上をはかり、常に新しい知識や技能を身に着ける必要があります。そのためにはこれまで学んできた電気工事の知識を利用し、防災系としての国家取得をめざし、現場活動を行う上での基準を学び、総合的に理解できるようになるのがねらいです。					
到達目標					
この科目では、学生が電気工事業界から取得を求められている、「甲種4類消防設備士」の資格取得が目標となります。防災系資格としての知識の取得・機器整備に対する構造要件など、電気工事士の技術や知識を有効活用し、防災に関する理論を率先して理解すること。消防署などの公的機関や発注元となる顧客への正式な書類提出の方法も理解する。施工現場での専用材料の発注や工程管理を学び理解します。業務活動を行うための必要な能力を具体的にイメージすること、無駄の無い効率的な整備の重要性を理解することを目標にしている。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。また、資格対策講座1と連携し、防災系国家資格としての在学時取得を行うものとする。授業中での行動を通じて、学生の「火災警報設備に対する意識」を育成していく。この授業に主体的に参加する学生が、防災に対しての提案能力を自分自身の言葉で語り、構築できるようになることを目指す。				
注意点	この授業では、国家資格の取得を重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	60%	試験と課題を総合的に評価する		
	課題	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～8回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	基本条項		消防設備士甲種4類について理解する		
2回	警報器の構造に関する基礎知識1		機器の構造について理解する		
3回	警報器の構造に関する基礎知識2		機器の機能について理解する		
4回	警報器の構造に関する基礎知識3		機器の工事・整備について理解する		
5回	火災警報器に関する法規1		総合的な消防法令について理解する		
6回	火災警報器に関する法規2		甲種4類に関する消防法令について理解する		
7回	鑑別		機材鑑別について理解する		
8回	まとめ		全体のまとめ		